

# 元祖 モノモノ書店 WEB版

令和2年度 愛知教育大学附属岡崎中学校 読書だより

『きょうの海村さん』の...  
教分のドラマバもいろいろ

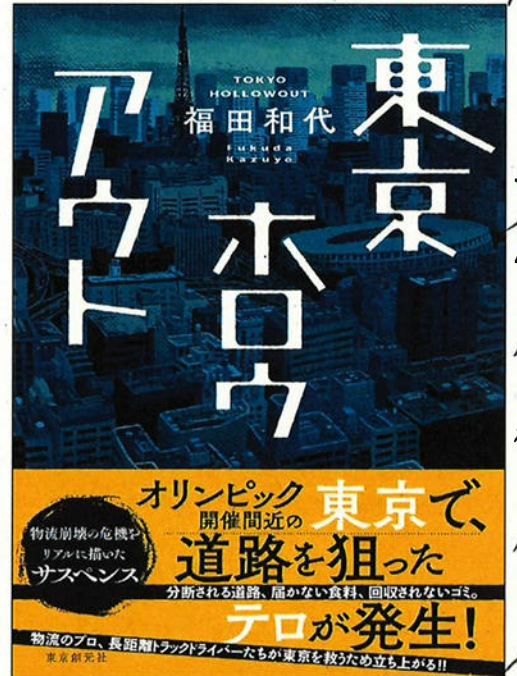
第7話 R02.05.01(金)  
「あたりまえに隠れた  
本当に大切なもの。」

★今回、紹介する本は、『東京ホロウアウト』（著/福田和代、出版/東京創元社）です。

今回は、「パニック・サスペンス小説」です。しかも、「東京の物流をねらったテロ」という斬新な視点がすばらしいだけでなく、実際に起こるかもしれないという恐怖も与えてくれる1冊。

舞台は、東京オリンピック間近の東京。高速道路や列車、トラックなどを狙ったテロが続発し、道路が分断されたり、食料が届かなくなったり、ゴミがあふれかえってしまったりするなどして、東京が孤島のような状態になってしまう…。

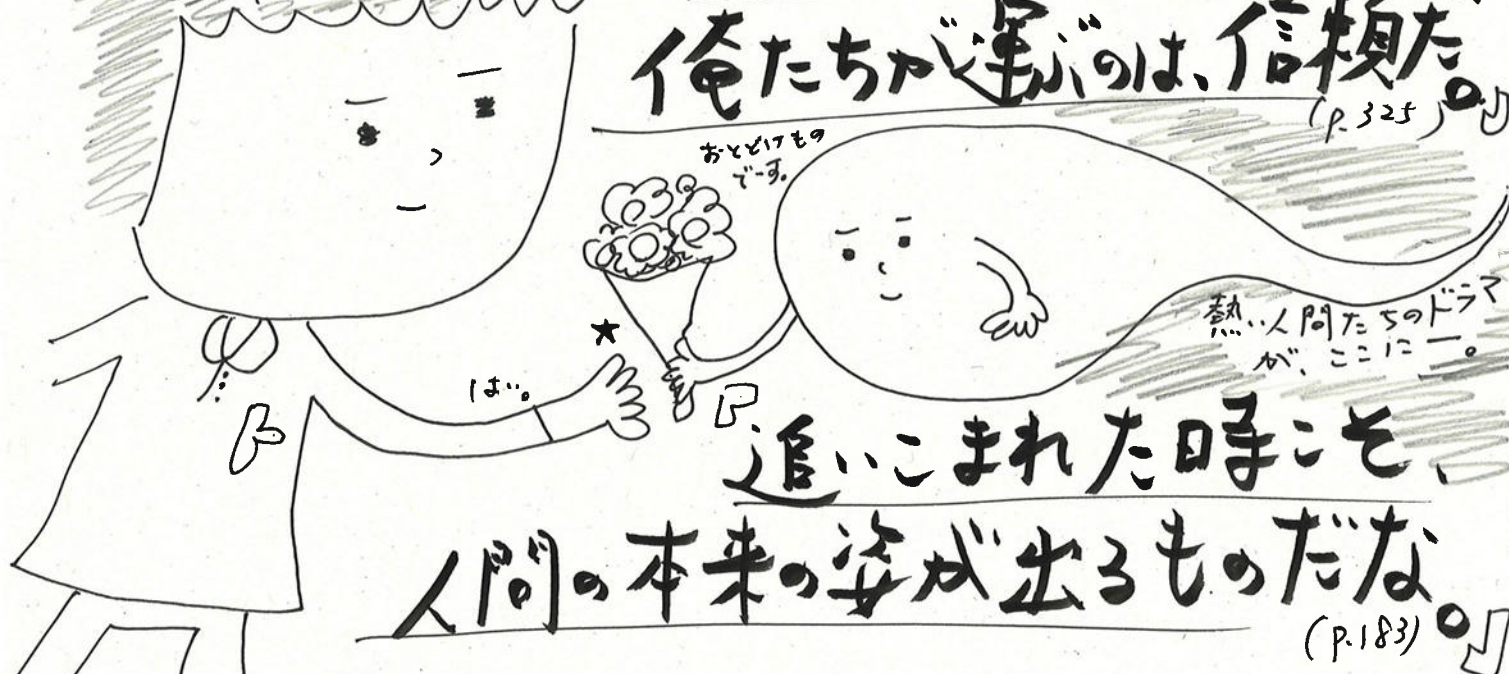
そして、そんなテロに立ち向かうのが、トラックの長距離運転手たち。軽んじて見られがちな運転手たちが、懸命にテロに抵抗し、東京を救おうとする姿が胸をうちます。現実ともリンクする非現実をお楽しみください。



リンクのせいで、びっくりした。びっくりした。びっくりした。

この本から牛乳が消えたらどうなるか  
描きがある。今のコロナにも  
通じる部分がある。  
あたりまえに支えられたい。でも  
ばかりでびくつき

『俺たちは、単にモノを  
運んでるわけじゃない！  
俺たちが運ぶのは、信頼だ。』  
(p.325)



『追いつかれた時こそ  
人間の本来の姿が出るものだ。』  
(p.183)